

**Q** 働く高齢者向けに年金額改定の仕組みが新しくなると聞いたよ。

**A** 厚生年金に加入して働く65～69歳に対する「在職定時改定」のことですね。60代後半で会社勤めを続けた場合、70歳になるまでは厚生年金の加入者として保険料を納めなければなりません。でも、これまで保険料納付に見合う年金増額は、加入上限年齢の70歳到達時か、それまでに退職した時というとになつてきました。「退職改定」と呼ばれています。

**Q** なぜ新しい仕組みを設けたんだろう。

**A** 厚生年金保険料の負担は

# 人生 100年時代の レジスン

19

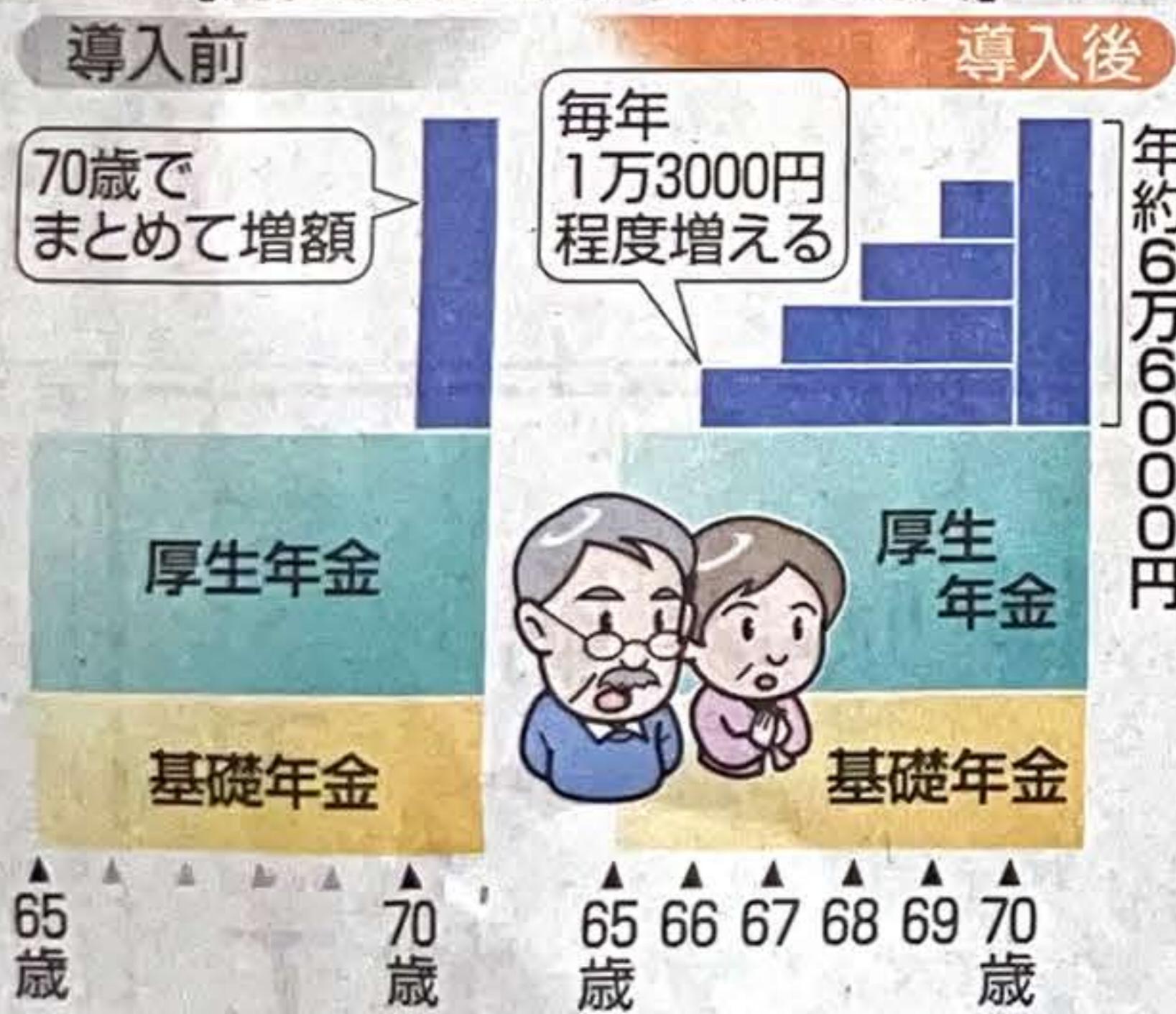
## 働く65～69歳対象の「在職定時改定」

# 1年ごとに増額 就労意欲促進

## 在職定時改定のイメージ

## 【月額賃金20万円で働く場合】

**導入前** **導入後**



増額というリターンが最長年も先になるより、1年ごとに見える形になつた方が望いという考え方です。背景に高齢者の就労意欲を促す狙あります。

施行は2022年4月から毎年10月に、それまでの保険納付実績に応じた年金増額がけられます。「在職」中の1回、「定期」に「改定」を施するというわけです。

Q 具体的な年金額を知りません。月額賃金（標準報酬額）が20万円で働く場合、



87歳の女性が「孤独死」していた部屋を片付ける長島さん。女性は布団の傍らに倒れていた=11月上旬

悲しんだ。

自治体の相談員に「老人ホームに入りたい」と相談していたことも死後、福祉職の人間に聞き、初めて知つた。

「人に迷惑を掛けまいと、具合が悪くても『大丈夫』と言う人でした。もつと早く（異変）に気付いてあげていれば……」と剛さんは

The graph illustrates the increasing trend of elderly people living alone in Japan over four decades. The female population has consistently shown a higher percentage than the male population.

Year	女性 (%)	男性 (%)
1980年	11	4
1985年	13	5
1990年	14	6
1995年	16	7
2000年	17	8
2005年	18	9
2010年	19	11
2015年	20	13
2020年	21	15
2025年	22	17
2030年	23	18
2035年	24	20
2040年	24	21

同所の分析によると、過去数十年間に進んだ未婚化などから、高年齢層では独居率の上昇が目立つようになる。65歳以上の未婚率は、男性が15年の5・9%から40年の14・9%へ、女性が15年の4・5%から40年の9・9%へいずれも大幅に上がる。

こうした傾向は今後も続く。国立社会保障・人口問題研究所の2018年「日本の世帯数の将来推計」によると、40年に65歳以上の男性の独居率は20・8

# 「孤独死」 身近な場所でも

# 中信地方の高齢女性 死後3週間たって発見

性は発見された時、敷かれた布団の横で、パジャマ姿でうつぶせに倒れていた。遺体の状況や読んだ形跡のある新聞の日付などから、亡くなつたのはおよそ3週間前。死因は不明だが、事件性はないという。

異変にまず気付いたのは、電気がつけ放しだつたのを不審に思つた近所の人だ。民生委員に連絡がいき、通報を受けて警察官が急行。遺体は傷みが激しく、検視や歯の照合などで本人と確認された。

女性自身にとつても、予期しない「突然の死」だつたことは、生活の痕跡からもうかがえる。発見時、テレビはついたまま。台所の炊飯器にはご飯が、流しには食べ残しの煮物が入つた皿があつた。「まさか孤独死が身近に起きたなんて」。女性のおいに当たる剛さん(54)は驚きを口にす

ところが5年ほど前、剛さんの母親（故人の妹）が認知症に。その世話を手いっぱいになり、徐々に伯母宅から足が遠のくようになつた。剛さんが最後に会つたのは9月下旬ごろ。伯母を気遣い、食材を差し入れたところ「いらっしゃない」と強く拒まれた。

後で思い返すと、その頃から伯母の体が弱つている兆候はあつたという。持病による足腰の痛みもあり「最近は顔色が良くなかった

最近まで、自転車を押して自分で買い物に行き、庭の草取りもしていたのですが：」

伯母は1934（昭和9年）生まれ。独身で、県内のホテルの売店などで70歳ごろまで働き、その後は年金暮らしだった。近くに住む剛さんは家族ぐるみで仲が良く、「私の子どもたちが行くといつも菓子を用意して迎えてくれた」と剛さんは懐かしむ。

自立して見えるケースでも……

# 支援の隙間 対策を

中信地方で10月末、当時87歳の女性が一人で暮らしていた自宅で「孤独死」しているのが見つかった。駅や商店街にも近い住宅地の一角で、なぜ女性の死は誰にも気付かれなかつたのか。少子高齢化や未婚率の上昇を背景に、独居母帯が増え、身近な問題になりつつある「孤独死」。孤立を防ぐためにはどうしたらいいのか、関係者の話を聞き、考えたい。

# 高齢の一人暮らし急増